龍族
RYUZOKU
第 11 号
南天会
平成 29 年
12 月 17 日

ササイの重大事とは何か。

宮本光研

佐々井秀嶺上人の何を継承すべきか。

一つはインド一億人の改宗仏教徒が今後、さらに一億五千万人が改宗の期を待っていると上人から聞き及んでいる。つごう二億五千万人がアウト・カーストに貶められている。

二つめはシャカの八大仏蹟が一つとして仏教会の管理下にない。上人はせめてブッダガヤの大菩提寺だけでも奪回したいとされている。いのちの炎をもやしてこの事業に取り組んでおられる。

三つめに龍樹菩薩の南天鉄塔を再現せんとされている。ナグプールの仏跡こそ確かな由縁があるとされる。ご自身がアーリヤ・ナーガルジュナの称号を頂いているが、その仏法の回復こそのぞまれる。

その他、ササイ仏教の継承、発展のため、インドと日本の連携。ひろくアジア仏教徒の立ちあがりがのぞまれる。ガンジーよりアンベードカルが優先されるべきである。

私見であるが、仏教の「無常観」が再構築されないか。常ならずとは生まれによって「常」とされるのが差別構造カーストである。これを打破する思想が「無常」である。シャカにおける「無常」は自由、解放の思想であった。インドは「常夏」の国であり、四季のうつろいはないに等しい。秋が来たら木の葉が散る、人は老い、やがて死ぬという無常観は輪廻思想にはばまれている。

シャカ仏教の「自灯明・法灯明」自らをかがやかし、真実をあきらかにして生きるおしえを仏教者の根幹とし、共有してゆくことこそ望まれるだろう。

（岡山 長泉寺前住職 南天会賛同人）

撮影：小林三旅

第61回　大改宗記念式典レポート

小林三旅

9月28日～30日までの3日間、大改宗式が行われました。

バンテージは今年、改宗式大導師、奉信ババサブアンベードカル博士記念協会会長、Dr.アンベードカルカレッジ会長を兼任し、改宗式の総責任者として活躍されていました。

式の直前に一つの問題が発生していました。

改宗式には周辺や広場内にたくさんの露店が出て、本、仏像、服、雑貨などの店が何百と並ぶのですが、実行委員会は露店の出店を認めない方向で動いていました。しかし、それを問題としたバンテージは直前に公開の意見会を開き、参加の意見を聞く機会を作りました。

会は白熱し、大方の意見は、遠くからわざわざやってきた人たちの稼ぎ場所を取り上げたくない、祭りの楽しみが失われるなどの意見が多く、バンテージも当初から出店を認めたいと考えていたようで、実行委員会は急遽出店を認める方針に変えました。

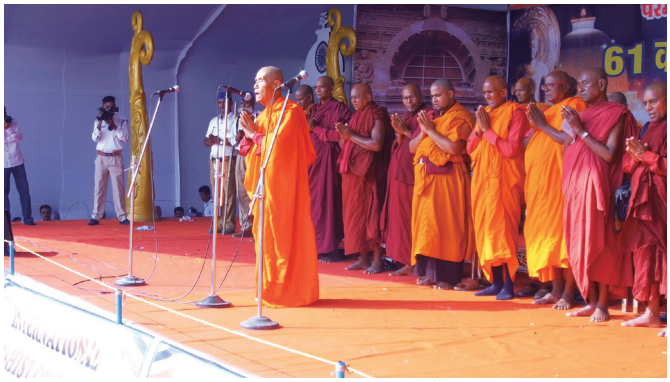
改宗式初日。

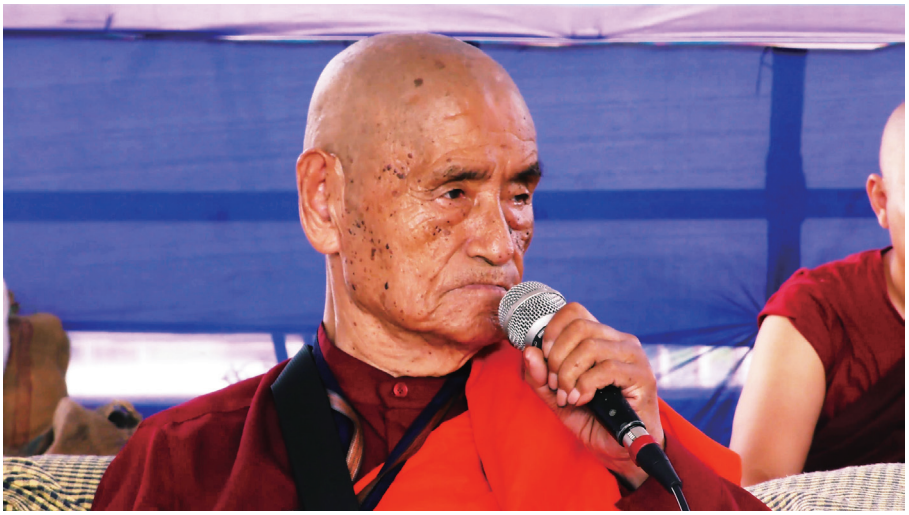
インドのイベントはどこも初日に全ての準備が整っていることはなく、のんびりと始まります。しかし、バンテージはインドに50年いても時間には極めて厳しく、9時の開始に合わせ改宗広場に向かい、改宗希望者の改宗を始めました。

今年の改宗で特に印象に残ったのは、出家希望者への得度式が多かったことです。印象では改宗式の5分の1ほどが得度式でした。この10年の間で5回改宗式に参加しましたが、最近、仏教徒に何かの意識変化があったように思いました。

バンテージは終始お元気で、声を出すときはしっかりと、休むときはゆったりと、ご自身の体力をうまく調節して、精力的に活動されていました。

29日夜には国際仏教徒大会が開かれ





ました。今年はタイのプミポン国王の喪中が重なり、タイからの参加者がなく、海外からの参加が少なく、寂しい印象でしたが、日本から参加した筑波大の根本達准教授と、英語教師の三村氏がスピーチをされました。スピーチの前にはムンバイから招待されて来たプロの楽団が数曲、アンベードカルと仏教を讃える歌を披露していました。これも今までになかったことで、こうしたレベルの高い催し物をできるようになったのは主催側に余裕が出て来た証拠だと思います。

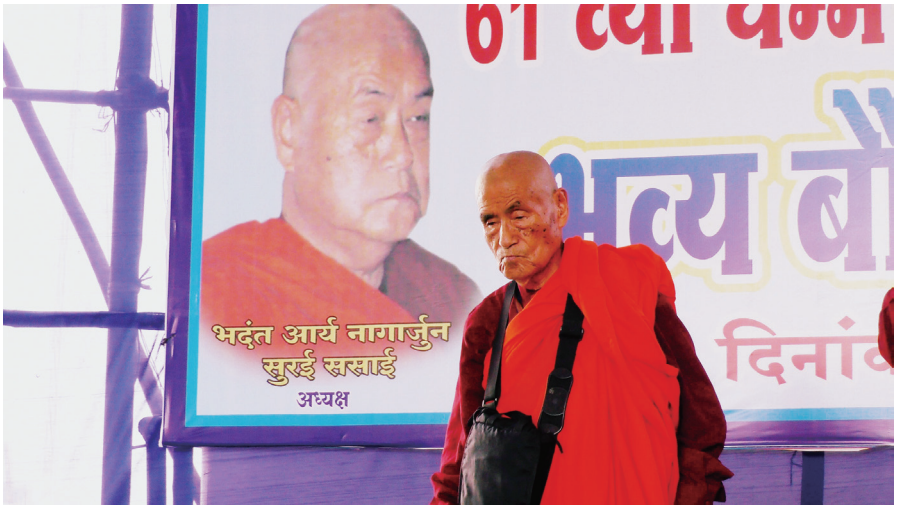
国際大会には日本人でオディシャ州在住の伝統舞踊家小野雅子さんも、仏教をテーマにした舞踊を披露する予定でしたが、諸事情がありキャンセルになってしまいました。小野さんはこの日のために新しい踊りを作っていたそうで、いつの日かナグプールで踊りたいとのことです。

最終日の9時は恒例のアンベードカルが改宗式を行った時間に合わせて、改宗広場での三帰依と二十二の誓いの唱和を行いました。

夜には州首相も参加した改宗記念集会がありました。ファドナヴィス州首相はここ数年、この集会に参加しています。

演説中、佐々井師を讃えるコメントもあり「50年も前に日本からやってきて貧しい地域に入り、ともに暮らしながら仏教を支えてきた。こんな人はインド中探してもいない」と話したそうです。

改宗式典は実際に改宗を行う場所でもあり、ナグプールの仏教徒にとっては、仏教徒である喜びを分かち合う祝典でもあります。式は年を追うごとに規模が多くなり、設備なども充実し、テレビの中継もいくつも入って生放送されています。61年目のイベントはインドの中心に根付いた仏教の土台が磐石になりつつある、そんな安心感を持つことのできる祭典でした。



インド現地報告

亀井竜亀

9月20日より再びナグプール入りした亀井竜亀さんが、『佐々井秀嶺資料室Facebook』で現地報告をしています。改宗記念式典周辺と最近の主な記事を抜粋して掲載いたします。

9月22日

不可触民階層出身のインドの新しい大統領ラーム・ナート・コーヴィンド氏がナグプールを訪問し、佐々井師の案内でアンベードカル博士の舎利が納められている改宗記念ドームを参拝されました。

9月23日

筑波大学の根本達先生がナグプール入りされました。根本先生は南アジア地域研究を専門とされ２００１年よりアンベードカル博士やバンテージの活動を研究されているそうです。

9月24日

小林三旅さんが改宗式取材の為にナグプール入りされました。

龍樹菩薩大寺、コンダサワリ農園に行かれました。龍樹菩薩大寺ではタイから寄贈された仏像の台座を作る作業が進められていました。寺の管理人のアングリマーラさんの娘さんにお子さんが産まれたそうです。誕生日は８月30日、名前はナーガルジュナ!!　おめでとうございます。

9月25日

地方の寺同士の争いについて相談を受けています。

昨夜はボンベイから仏教徒が訪れバンテージから説法を受けました。

9月26日

『コーヴィンド大統領、改宗記念ドーム参拝』の記事がインドで一番読まれている新聞の１面を飾りました！　その他多くの新聞に取り上げられました。

9月27日

午前中に改宗式打ち合わせ、夜はアンベードカル博士が作った平等部隊（人権侵害に対抗する組織）の発足式に参加されました。バンテージ「改宗式にはインド中から仏教徒が集まる。俺は総責任者だ！」

9月28日

改宗式がはじまりました。朝８時からはじまった改宗式、夕方から希望者が増え、改宗証明書もお坊さん総出で記入しています。バンテージは一時も休むことなく導師をつとめられています。

9月30日

第61回大改宗式典。バンテージは１日12時間以上続く式典、改宗式ともに休むことなく導師をつとめられました。

翌日はナグプール駅前にて仏教徒への炊き出しに参加。インド中から集まった仏教徒の為に１万食が用意されているそうです。ナグプールでは至る所にこのような光景が見られました。

10月5日

雨安居が明け、インドラ周辺の住民に食事の提供がありました。

10月6日

インドラ寺から１時間ほど離れた村のランプリ寺の落慶式に参加。

10月7日

アーナンダブッダビハールの式典に参加。ここはバンテージがナグプールに来てから最初の10年間を過ごされたお寺だそうです。バンテージは１時間ほど読経され40年以上前からの古いお知り合いの方々と楽しく談笑されておりました。

10月9日

片道４時間ほどかけアムラワティへ、タターガトゥブッダビハールの落慶式典へ参加。バンテージ「10ルピー、20ルピーと住民の皆さんで募金して建てた。このようなお寺が仏教を発展させるんだ！」

10月11日

連日バンテージは各地のお寺でのプログラムに参加されています。

一昨日はナグプールにあるクシナガル

ブッダビハールへ。途中から滝のような雨になりお坊さんのサンダルが流されてなくなるというハプニングがありました。またインドでは「スートラ」という手首に巻くお守りのようなものがあるようです。皆さんお坊さんから巻いてもらいます。

10月12日

マンセル、龍樹菩薩大寺、コンダサワリの診療所へ行かれました。龍樹菩薩大寺ではタイから送られた仏像の設置作業が行われていました。コンダサワリの診療所では停電の為、ドクターと看護師さんが懐中電灯を片手に診療をされていました。また患者さんを運ぶ為の救急車やジープが古くなり修理をしないと動かないそうです。

10月14日

本日は1956年アンベードカル博士が民衆と共に仏教へと改宗した記念日です。バンテージは朝から改宗式、落慶式典の導師を勤め、その後はナグプール市内のアンベードカル像に花を添えました。

10月16日

第61回チャンドラプール改宗記念式典（アンベードカル博士が民衆と共に2回目の改宗式を行ったところです。）

10月17日

マッディヤプラデーシュ州カタンギへ。往復10時間ほどかけて移動し、アンベードカル大改宗記念国際仏教徒大会に参加しました。このような大会の周辺ではお土産屋さんの他にボランティアで健康診断や食事が受けられます。バンテージも主催者に促され血圧、血糖値を測って頂きました。異常はなかったようです。

11月11日

インドラブッタビハールにある学習室では毎晩遅くまで学生が勉強に励んでいます。バンテージ「お母さん、お父さん、例え貧しくても、食事を1食ぬいてでも子供たちを学校へ通わせて学ばせなさい。」

11月12日

バンテージが顕彰、保全を進めている龍樹山について、インドで新聞記事がでましたのでご紹介致します。（翻訳＝中村龍海氏）

公益訴訟 龍樹山の国定史跡認定を

『ナグプール・タイムズ紙』2017年11月9日付

ナグプール：ラームテク近郊の龍樹山（ナーガールジュナ・テークディー）の国定史跡および文化遺産認定を求める公益訴訟が、ボンベイ高等裁判所ナグプール支局で提起された。

ブーシャン・ダルマーディカーリ、スワプナ・ジョーシ両判事から成る第二審判事団は、インド政府考古局と州考古局長官を含む被告に通知を行い、同地の「現状の維持」を許諾した。被告には12月4日までの返答提出が命じられている。

社会活動家のパラマーナンダ・ガテー氏は、弁護士のシャイレーシュ・ナルナワレー氏を通じ「龍樹山一帯には古い洞窟や古代の人工遺物があり、何種類もの薬草が発見されている。これら全ての国家的遺産は保存を必要とするため、原告は同遺跡でのあらゆる種類の掘削の停止と侵食の除去を願うものである」と主張した。

原告は法令第49条を引いて、国家的・文化的に極めて重要な場所や物を守ることを被告に命じるよう嘆願した。

11月16日

・映画【ジャイビーム -JAI BHIM】

一昨日、バンテージはインド仏教徒の合言葉ジャイビーム（アンベードカル万歳）がタイトルとなっている映画を観賞した。この映画は「ジャイビーム」のパイオニアである、L. N. Hardas（1904-1939）の生涯を描いた作品である。彼が

アンベードカル博士を初めてナグプールへ呼んだこと、ジャイビームの合言葉を広めたことなどが描かれている。バンテージ「これは歴史的な映画だ。」

11月17日

来月シルプールで初めて行われる『世界仏教徒大会』のパンフレットが完成しました。

11月20日

ナグプールに昨年できた、バダンタアーリアナーガルジュナシューレイササイブッタビハールの仏教徒大会へ。ここのお寺にはバンテージの歴史を写真パネルにして展示しています。バンテージ「私の師匠は戦争に投獄されても反対した人だ！」

11月21日

ナグプールより南へ４００kmほど移動してテレンガナへ。そこの村でバンテージは得度式の大導師を務められました。新たに僧侶２２６名、尼僧９名が誕生しました。

11月23日

アショーダラブッタビハールの仏教徒大会に参加。こちらはバンテージのお弟子であるダンマボディさんのお寺です。ダンマボディさんはバンテージが２０１４年に危篤になった際に入院中ずっとバンテージのお世話を献身的になされました。その事がタイ国に伝わり大きな仏像を頂いたそうです。バンテージ「ダンマボディは俺が入院した時、俺が女性の看護婦さんを拒否した為に、身体を拭いたり下の世話など全部してくれたんだ。」

11月26日

・ＣＯＮＳＴＩＴＵＴＩＯＮ　ＤＡＹ（インド憲法記念日）

本日はアンベードカル博士が憲法を起草した記念日です。インド全体でアンベードカル博士を讃えたイベントが行われています。ナグプールの改宗記念広場には前副大統領ハミッドアンサリ氏が訪れブッタ像、アンベードカル博士の舎利に手を合わせました。

国際仏教会議

シルプール遺跡研究概要

佐々井上人が再発見し、大規模な発掘が行われたシルプール遺跡にて、国際仏教会議が開催されます。そのパンフレットにはシルプールの遺跡研究概要が記載されています。以下日本語訳（翻訳／中村龍海氏）

世界最大の仏教遺産・史跡

インド・チャッティースガル州

シルプール

周囲10kmのエリアに仏塔、７００の塚、１００の仏教寺院と祠堂、79体の金属仏・弥勒・蓮華手・観音等と聖なる仏舎利

国際仏教会議および文化祭

とき：２０１７年12月23・24・25日

ところ：インド・チャッティースガル州マハーサムンド地区シルプール

全仏教団体と仏法信徒を代表して

啓発的導師アーリヤ・ナーガールジュナ・シューレイ・ササイ（佐々井秀嶺）大徳（チャッティースガル州、シルプール・ナーガールジュナ財団総裁）

シヴリ大徳（スリランカ）

チャーンディーマ大徳（サールナート）

仏教史の金鉱脈シルプール

・インド・チャッティースガル州マハーサムンド地区マハーナディー河畔にある歴史的な町シルプール

・シルプールとチャッティースガル州の仏教の古さはブッダ在世当時まで遡る

・仏教時代のシルプール（シュリープラ）とチャッティースガル（南コーサラ国）における歴史・記念碑・文献に証拠が残る

・聖なる仏典では、現代のチャッティースガル州として知られるインド中央の、更に中心地全域が南コーサラ領と描写される

・聖なる仏典『アヴァダーナシャタカ』は、北コーサラのプラセーナジット王と南コーサラ王の間で紛争が勃発したとき、ブッダが南コーサラに滞在したことに言及する

・その後、アショーカ王期の歴史が当地の仏教とのつながりを再確立させた

・６～10世紀の重要な仏教中心地

・６３９年、中国の巡礼学僧・玄奘が訪れた

・アーユルヴェーダ治療センターと６世紀のアーユルヴェーダ浴槽（沐浴泉）

・長年にわたる、高名な交易中心地。１km以上にわたって広がる市場が発見された

・金属像をうみだす7～8世紀の熟練の技術
・これらの金属像は独・英・米で展示されている

チャッティースガルと仏教との関係に限って言えば、６３９年に到来した中国人巡礼僧・玄奘がそれを分類して記述した。彼に拠れば、カリンガ国の首都から北西に１８００～１９００里（３００～３１７マイル）移動して"Kia-sa-lo"（コーサラ）国に着いたという。玄奘はまた、アショーカ王が南コーサラの首都近郊に仏塔を、首都にも他の建造物を建てていたことに言及する。また彼に拠れば、南コーサラの首都シュリープラ（シュリープラ）近くの寺院に、有名な仏僧で哲学者の龍樹が住んでいたという。

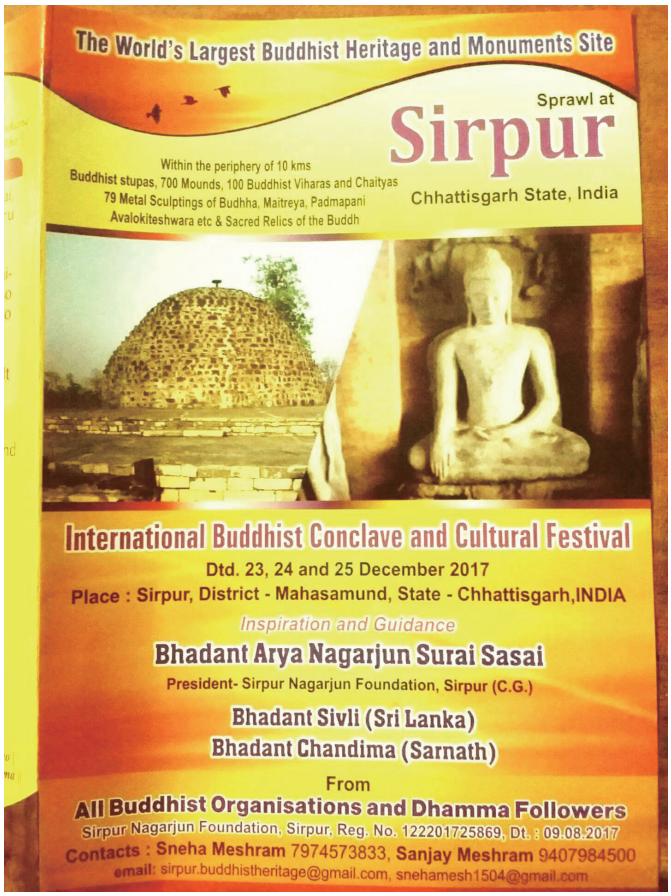
パーンドゥ王朝のバヴァデーヴァ・ラナケーサリ王のアーランガ石碑文に拠れば彼は、先にスールヤゴーシャ王がその亡き息子のために建立していた仏堂を完成させたという。同碑文はバヴァデーヴァ・ラナケーサリが自身仏教の信徒であったことを明確に記録している。

このほかにも、チャッティースガルの全碑文が、歴史上長きにわたり、南コーサラで仏教が主流であったことについての情報の一大偉観を提供している。

シルプール、即ち古代南コーサラの首都シュリープラの発掘により、９寺院、彫刻群、79体の青銅像その他の古遺物が出土した。

振り返ると、チャッティースガル（古代の南コーサラ）の仏教遺跡の研究が、同地に仏教徒が築き上げたものが沢山繁栄していたことを明らかにしたのだとわかる。仏教徒の芸術活動は13世紀まで続いた。

シルプールは大部分が未発掘・未調査で、ユネスコの世界遺産リストに含まれる他の遺産的仏教遺跡や、構想されている「インド仏跡霊場」と共に脚光を浴びるよう、全般的な学術文書化による整理が求められる。



2017年12月23～25日

国際仏教会議および文化祭へのご来場・ご参加をお待ちしています。シルプールの世界最大の仏法遺産・史跡をその目で見よう！

行事

・国際的に著名な学者達による仏教セミナー・プレゼンテーション
・聖比丘サンガによる法話講義
・法話とディスカッション
・仏法遺産散策
・瞑想セッション
・音楽・文化プログラム
・映画・ドキュメンタリー等々

組織委員会

1. シルプール・ナーガールジュナ財団（チャッティースガル州）
2. 龍樹菩薩記念研究協会（ナグプール）
3. ガウタマ・ブッダ文化福祉トラスト（ウッタル・プラデーシュ州グレーター・ノイダ）
4. ミッション「ペイ・バック・トゥ・ザ・ソサエティ」（ウッタルプラデーシュ州ガジアバード）
5. ダンマ・ラーニングセンター（ウッタルプラデーシュ州サールナート）
6. インド仏教会（チャッティースガル州ビライ・ライプール）
7. ユニティー・フォー・ソーシャル・ジャスティス（チャッティースガル州ライプール）
8. B. R. アンベードカル博士工業・貿易・起業協会（BRAITE）（チャッティースガル州）
9. シャマタ・シャイニク・ダル（チャッティースガル州・マハーラーシュトラ州）
10. グル・ガシダス・サーヒトヤ・アヴァム・サンスクリティ・アカデミー（チャッティースガル州）
11. チャッティースガル・プラガティシル・サトナーミ・サマジュ（チャッティースガル州）

本

新刊　2018年1月刊行予定

龍樹の遺跡の発見
―インド、マンセル・ラームテク遺跡―

アニル・クマール・ガイクワード　著
中村晃朗（龍海）　翻訳
六一書房　A5判584頁

本誌同封の注文書にてお申込みの場合、本体価格5000円のところ**特価税別4000円**にて頒布いたします。
詳細は注文書をご参照下さい。

マンセル遺跡――北緯21度23分、東経79度16分――は、インドマハーラーシュトラ州の州都ナグプールから北東に約40kmの地点に位置する小山上にある複合仏教遺跡群で、現在、同遺跡の（再）発掘プロジェクトが進行中だ。かつて、佐々井秀嶺師率いる龍樹菩薩記念研究協会がインド人考古学者達と行った本格的な発掘以来、マンセル再発掘の機運は今最も高まっていると言え、本書は現時点での、マンセル遺跡とその発掘、そして大乗仏教の開祖龍樹（ナーガールジュナ）菩薩との関わりを追究した集大成の書籍である。また、マンセルの仏教的側面や出土物を無視する傾向が強いヒンドゥー教側の立場でなく、仏教側の立場から同遺跡を紹介する唯一の書籍と言ってもいいだろう。

第1、2章は龍樹菩薩にまつわる伝説・伝承の概観、第3章は大英帝国統治時代から現在までのマンセル遺跡踏査・発掘成果や先行研究、関連文献の総覧と問題点の指摘がなされる。第4章はマンセルから多数の薬草や古代インド医学（アーユルヴェーダ）の薬・器具が見つかっていることを受けて、インド医学史と龍樹菩薩の貢献について概観。第5章は龍樹菩薩の著作とされる『宝行王正論（ラトナーヴァリー）』からの抜粋。第6章はマンセル遺跡に関する近年の新聞記事の紹介、といった構成だ。

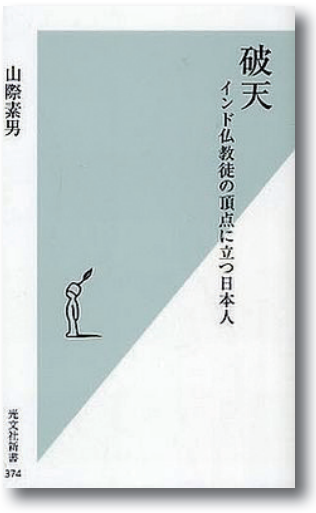
マンセル遺跡は玄奘三蔵法師等の記録と現地の考古学的特徴との一致から、上述の龍樹菩薩の遺跡である可能性が高まっており、本書はその解明への重要な鍵を与えてくれると同時に、佐々井秀嶺師の活動の記録としても歴史的価値を有する。マンセル遺跡を本格的に紹介する先駆けである本書を読んで、ぜひ大乗仏教の源流につながる可能性を秘めたマンセルの全貌と、その先行研究の層の厚さの一端に触れていただければ幸いである。

プロフィール
アニル・クマール・ガイクワード
1969年に大学卒業以降、MD（Gen. Med.）、PhD（医学、社会学）の学位を取得。インド政府アウランガバード医科大学元教授。アウランガバードMGM大学医科大学医学教授。『ジーヴァカ』の著述でババサーヒブ・アンベードカル博士文学賞を、「アショーカの医学への貢献」の論文でアショーカ・ブーシャン勲章を受章。古代インド医学、特に仏教時代のそれが興味の中心。エイズ、心臓病等の診療、助言等を行う。HIV感染患者のカウンセラーを養成し、自身も冠状動脈や結合組織の病気等、慢性病治療の第一人者である。
（旧「Dr. Anil Kumar Gaikwad Roy MD. MD. Ph. D.」ホームページより）

中村　晃朗（龍海）
1985年鹿児島県生まれ。2012年東大大学院修了（仏教学MA）。2016年インド・ナーランダー大学大学院を第一期生として修了（歴史学MA）。第8回世界考古学会議京都大会で「マンセル――龍樹の遺跡の発見：水流に関係する建築および中国・朝鮮の旅行記にもとづいて」と題して発表。2015年、佐々井秀嶺著『龍樹と龍猛と菩提達磨の源流』（東方出版）を筆録・編集。

佐々井秀嶺関連 既刊書籍・DVD
（以下価格税抜）

破天
インド仏教徒の頂点に立つ日本人



山際素男　著
光文社新書（2008年）
新書判600頁　1400円

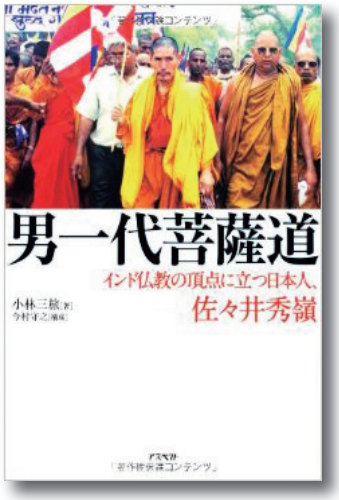
「不可触民の道」（絶版）で最も早く佐々

井師を日本に紹介した山際素男氏による佐々井師評伝の決定版。その生い立ちからインド仏教最高指導者となるまでの波乱万丈の半生を、インドに深く入って取材した筆者が情熱をこめて描く。佐々井上人とインド仏教徒の壮大なドラマ。

男一代菩薩道

インド仏教の頂点に立つ日本人 佐々井秀嶺

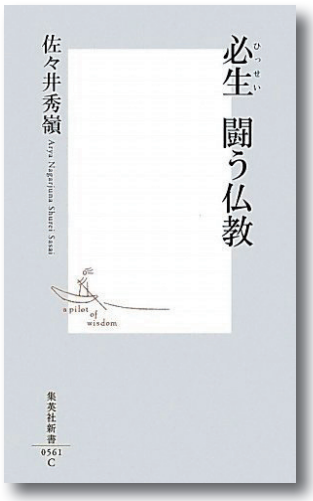
小林三旅　著
アスペクト（2008年）
B6判291頁　1800円
※現在品切れ中



2004年フジテレビで放映されたNOTTV『男一代菩薩道』の書籍化。俺がやらなきゃ、誰がやる！　不可触民解放と仏教復興に命を賭けて、インドで40年間戦い続ける佐々井上人の姿を描く渾身のノンフィクション。

必生　闘う仏教

佐々井秀嶺　著
高山龍智　編
集英社新書（2010年）
新書判200頁　700円

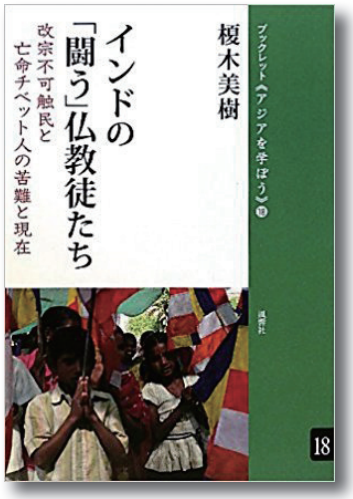


2009年、44年ぶりの師の帰国後に、講話をもとに編集された普及版。必生、必ず生きる！　煩悩は生きる力。苦悩と流浪の果てにインドへ辿り着き、仏教に身を捧げた波瀾の半生と生の哲学、菩薩道を本人が語る。

ブックレット《アジアを学ぼう》 インドの「闘う」仏教徒たち

改宗不可触民と亡命チベット人の苦難と現在

榎木美樹
風響社（2010年）
A5判63頁　800円

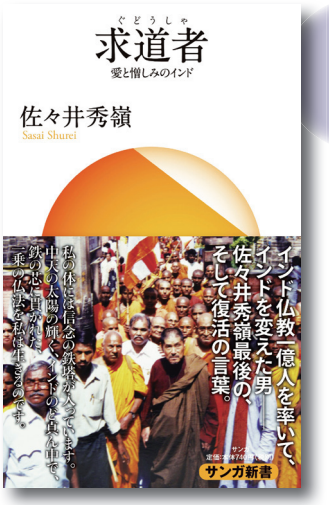


JAICAインド事務所調査員として滞在したインドで、マイノリティとしてのインド仏教徒の実態を、統計資料と現地調査によりとらえたレポート。ナグプールにも滞在し、佐々井上人の活動を紹介。亡命チベット人仏教徒の現状も伝える。

求道者

愛と憎しみのインド

佐々井秀嶺　著
小林三旅　編集協力
サンガ新書（2014年）
新書判201頁　740円



見知らぬナグプールの路上に立って、インド仏教徒の人たちとこれから生きていこうとする佐々井上人。身の回りで起こる様々な日常を智恵と勇気と求道心で乗り越えていく佐々井上人。そして共に歩むインドの人びと。危篤騒動にまで言及したバンテージ最期の、そして復活の言葉。

龍樹と龍猛と菩提達磨の源流

サータヴァーハナ王朝・パーンドゥ王朝・ボーディ王朝

佐々井秀嶺　著
中村龍海　筆録・編集
東方出版（2015年）
B6判258頁　2000円

真言密教や禅宗の起源に迫る新事実を語る。50年に及ぶインド仏教復興運動の傍ら、厖大な資料を収集・調査し、遺跡を踏査。佐々井上人龍樹菩薩研究の全貌が明らかに。2015年高野山講演第1部「私観南天鉄塔」の正式テキスト。

社会苦に挑む 南アジアの仏教

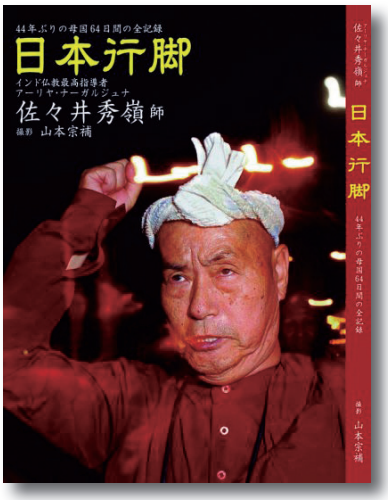
B.R.アンベードカルと佐々井秀嶺による不可触民解放闘争

関根康正／根本達／志賀浄邦／鈴木晋介
関西学院大学出版会（2015年）
A5判90頁　1200円

2015年佐々井秀嶺高野山講演第2部「アンベードカル博士と現代インドの仏教徒」の講演内容を書籍化。B.R.アンベードカルおよびエンゲイジドブッディズム研究会のフィールドワークに基づいた研究が示される。ナグプール改宗記念式典、アンベードカル博士生誕祭の様子もレポート。

日本行脚

44年ぶりの母国　64日間の全記録



山本宗補
佐々井秀嶺資料室（2010年）
A3判169頁　10000円（改定）

2009年、44年ぶりの帰国に同行撮影。報恩と懺悔、旧懐と激励、そして佐々井上人の目から見た現在の日本。全国を旅した佐々井上人怒涛の日本行脚を完全取材。残部僅少ですが、佐々井秀嶺資料室にて販売しております。南天会事務局までお問い合わせください。

DVD 男一代菩薩道

神とて万能にあらず

小林三旅　監督
JVD（2014年）
67分　3200円

ブッダガヤ、フクシマ、ナグプール。インド仏教を牽引する現代の荒法師・佐々井秀嶺の生き様とは！　インドでの十年に及ぶ取材を敢行した映像作家・小林三旅による集大成。

ブッダとそのダンマ

B.R.アンベードカル著・山際素男訳
光文社新書（2004年）
新書版430頁　1000円

アンベードカル博士がその死の直前まで目を通して書き上げた畢生の書。インド仏教徒の光明にして、日本仏教にも大きな問題を提起する現代の仏書。山際素男氏による唯一の邦訳。巻末に佐々井上人の熱意ほとばしる解説を収録。

夜明けへの道

岡本文良作・こさかしげる画
金の星社（1994年）
四六判189頁　1300円

インド憲法の父・アンベードカル博士、そしてその思いを受け継いだ佐々井秀嶺師。彼らの苦難の道のりが児童書に。第40回青少年読書感想文全国コンクール課題図書。

上記の本等は、書店などでお求めください。南天会事務局にも少部数在庫がございます。（別途送料がかかります。）

南天会会計報告(H29. 8. 1～H29. 11. 30)

（単位　円）

月	日	摘要	収入金額	支出金額	差引残高
		前期繰越			908,296
8	5	来日写真印刷代		13,065	895,231
8	7	アルバム購入		1,794	893,437
8	17	「龍樹の遺跡の発見」南天会買取分前金　※1		216,000	677,437
8	24	滞在支援インド渡航費援助　※2		125,710	551,727
8	25	インドへ荷物発送		15,600	536,127
8	31	会費・支援金(振込)	20,000		556,127
9	7	滞在支援経費援助		33,380	522,747
9	7	佐々井上人へ支援金　※3		100,000	422,747
9	13	龍族 10 号発送代(330 通)		47,860	374,887
9	30	会費・支援金(振込)	279,977		654,864
10	31	NHK放送料(Eテレ「こころの時代」出演)	95,985		750,849
10	31	会費・支援金(振込)	83,000		833,849
11	5	南天会ナグプールツアー援助　※4		100,000	733,849
11	5	振込手数料		432	733,417
11	26	佐々井上人へ支援金　※5		300,000	433,417
11	26	振込手数料		432	432,985
11	30	会費・支援金(振込)	64,000		496,985

※1＝ガイクワード博士著／中村龍海訳「龍樹の遺跡の発見」(六一書房刊)出版支援として、南天会で 140 部購入いたします。マンセル遺跡周知のため、佐々井上人からも要請がありました。発行後、残金(388800円)を支払います。

※2＝お弟子の亀井竜亀さんが来年 3 月までの予定でナグプール入りされました。往復の交通費および、留守宅管理費用などを支援しております。

※3＝亀井さんに託して佐々井上人へお渡ししました。

※4＝11 月 29 日出発の南天会主催ツアー催行に関する費用です。

※5＝南天会ツアーでナグプール入りされた位田龍樹さんに託して佐々井上人へお渡ししました。

（会計の詳細な資料は、事務局にて保管しております。龍族発行ごとに会計報告を行い、世話人会にて監査を実施いたします。ご不明の点等ございましたら事務局までご連絡ください。）

【特別支援金寄附者御芳名】 ※敬称略　年会費とは別に南天会に支援金をいただいた方のお名前です。

伊藤友人　井上義隆　今村美津子　江幡誠　柏内敏子　梶山輝彦　河村清子　北川伸次　澤登拓　篠崎大知　密門会有志　新内秀一　橋本明　文屋晋和　宮地修　宮本千鶴子　森井伸幸　吉岡佳菜　渡辺典子　　その他、世話人賛同人各会員の皆様から様々なご支援をいただいております。

・会費外の入金については、特別支援金として会報にお名前を掲載させていただきます。

・インドへの送金状況、来日時活動費用、滞在支援隊援助など、会報ごとに会計報告を行い、賛同人・世話人にて監査を行います。

おかげさまで南天会からの佐々井上人への支援は継続して行われ、その額も増えております。これからもインドでの様々な活動、遺跡の発掘、ブッダガヤ大菩提寺裁判費用など、どれも日本からの支援が必要となってきます。今後ともご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

◆南天会現況（平成二十九年十一月現在）

正式会員数　183名

賛同人（五十音順・敬称略）

漆間宣隆（浄土宗浄土院住職・前岡山県佛教会会長）
奥平心月（釣月庵庵主）
織田隆深（高野山真言宗真成院住職・密門会会長）
小野重徳（仏国土の会会長）
黒澤雄太（剣士・日本武徳院師範）
小池一郎（株式会社マクシス・シントー常務取締役）
島影　透（株式会社サンガ社長）
高山龍智（佐々井上人お弟子）
土屋信裕（顕本法華宗弘通所法華行者の会主宰）
冨士玄峰（臨済宗・元ナグプール同友会世話人）
宮淵泰存（日蓮宗妙光寺住職・長野県修法師会会長）
宮本光研（真言宗御室派元執行）
宮本龍勝（佐々井上人お弟子）
山本宗補（フォトジャーナリスト）

※賛同人について

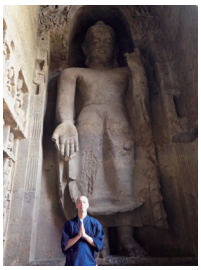
当会の主旨を理解し、協力、推薦する人を賛同人とし、お名前を公表させて頂いております。賛同頂ける方は是非お申し出ください。

※世話人について

南天会諸業務をお手伝いいただける方は皆世話人とし、特に任命等はいたしませんので、どなたでも気軽にご参加ください。

ナグプール訪問旅行のご案内

毎年、佐々井上人の法城ナグプールを訪問する旅行を企画しています。
南天会世話人が同行いたします。



お急ぎください！

25周年記念
ドンガルカル仏教徒大会参列とナグプール

釈尊三大聖地参拝コース（9日間）
世界遺産見学コース（8日間）
仏教徒大会最短コース（5日間）
2018年2月4／5日出発
南天会企画：トラベルサライ実施
TEL 0120-408-128

この機会に是非ナグプールを訪問しましょう。

ご支援・会費について

【会員種類と年会費】
支援会員　10,000円（会費＋支援金）／年
一般会員　5,000円／年
学生会員　2,000円／年（※大学生まで）
その他の特別支援も、時期・金額問わず受け付けております。

《各種お振込先》
【金融機関名】ゆうちょ銀行　【加入者名】南天会
【口座番号】01380－0－90164
同封の振込用紙、または郵便局備え付けの払込取扱票にてお振込下さい。なお、ご入会を希望せずご支援のみの方は、通信欄に「入会不要」とご記入下さい。

（南天会事務局）
〒710-0004
岡山県倉敷市西坂1582-1 一心念誦堂内
TEL/FAX 086-463-9391
佐伯隆快（090-5304-8955）
小林三旅（090-4538-2677）
メール　nantenkai@gmail.com
URL　http://www.nantenkai.org/
最新情報は
Facebook『佐々井秀嶺資料室』
をご確認ください。

南天会のご周知・宣伝にご協力ください

お陰様で入会者数は増えてきておりますが、支援の輪はまだまだ広げていかなければなりません。パンフレットなど必要な方は事務局までお知らせ下さい。PDF版は南天会ホームページ「南天会について」よりダウンロードできますので、各自印刷の上ご利用下さい。